**にいがた協同ネット２０１８年度　第８回運営委員会議事録**

1. **開催日時：2018年11月29日（木）15：30～16：55**
2. **開催会場：新潟市中央区東万代町　万代市民会館４階、４０８研修室**
3. **参加者：渡邊、江花、高見・武田、齋藤、中村、堀井、間、冨澤**
4. **同席者：本図（にいがた生協）**

　　渡邉代表が2019年度後期に計画している寄付講座、及び11月30より水俣へ出張し1月13日に報告会を開催する旨の挨拶の後、本図氏（にいがた生協理事）並びに参加者全員が自己紹介を行った後、高見副代表が座長となり開会した。

1. **議事**

**１．にいがた協同集会の開催について**

・高見座長より、本年7月に開催されたJCA主催の全国交流会議資料に基づき、協同組合間連携の事例に触れ議論を促したのち、2019にいがた協同集会開催趣意書を寄稿した江花氏に想いを語ってもらった。その後、参加者全員より意見を求めた。

＜主な感想・意見＞

・間氏……労福協はにいがた協同ネット（以下、ネットという）との関わりについて議案書に方針化している。これまでの経過を聞いていると、JAとの関係は重要であり感度を併せた丁寧な対応をすべきだ。

・堀井氏……集会の開催にあたっては多くの分科会は必要ないと考える、また、県生協連とは関係性を深めてほしい。

・江花氏……県生協連岡田専務と会う機会があり次の二点について聞いたところ、①JCA発足を受け県提携協としての対応状況については県生協連を含め検討していない。②協同集会はネット主催で取り組むのは問題ないと考えている、県提携協や県生協連で協力することは可能だと思うが丁寧に対応して欲しい。なお、両組織ともに大きな組織であり夫々の中心的な役員との情報交換の機会を依頼したところ、年明けに日程調整する方向となった。

　……協同集会は多くを集めるよりは30人位の規模で県提携協にも呼びかけ交流学習会と位置付けてはどうか、内容として、①JCAからの提起、②各事業団体の活動報告、③参加団体が一緒にやれる課題、としてはどうか。その他、協同労働をどう広めるかについても検討が必要だ。

・武田氏……この間、当初計画したプレ集会開催にあたり、高見副代表と一緒に県生協連長谷川会長と会談したが、理事会は議論する場となっていないが検討する旨の回答を得た。なお、理事会ではほかの議題に関連して運営委員でもある鈴木副会長から、JCA方針に沿って新潟における強化がはかれないか補強意見が述べられた。

・冨澤氏……プレ集会の開催にあたり、直前に開催日が変更となるなど対応が後手に回っていたのではないか、NPOでのイベント開催は3か月前にはチラシ等が作成されるのが常である。

・渡邊氏……JAが取り組める課題にどう向き合うのか、パーソナルな関係作りも重要だと考えるが、組織にどう働きかけするのか検討の要がある。

・齋藤氏……12月13日にフードバンクの米贈呈式が予定されており、JA専務と対話の機会が持てれば伝えたい。また、子供の貧困問題に取り組みたい。

・本図氏……にいがた生協としては小さな組織のため、仕事と関係がないと結びつきが難しい。

　　　・中村……JCA発足を受け全国で一定の動きが見えるが、県内においては提携協の動きが見えていない、これらの組織とのネットワークづくりが重要と考える。一方、ネット独自の活動を重ねることも重要であり、その一つとして計画する協同集会開催はこれから仕切り直しとなるが意義深い活動となる。これら双方の活動を並行して行うことが重要と考える。

　　　・高見氏……この間、江花氏が積極的に各方面との調整を行ってもらっているが、今後の対外的な対応・折衝を考えた場合、江花氏より共同代表に就いてもらいたいと考える。

以上で第8回運営委員会を終了した。

次回運営委員会は、交流会を含め12月19日(水)に開催を予定する。

以上（文責:中村）